令和８年度日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目検定試験
実技試験概要（受験者用）

1．目的

実技試験は、アスレティックトレーナーの業務に必要な知識、適性、マネジメント能力及び技術を総合的に評価することを目的とし、「公認アスレティックトレーナーの役割」に関する内容について、必要な知識及び技術を正しく実践できるか否かを評価するものとします。

2．出題項目・出題内容

検定試験実施要項記載の６項目を３カテゴリーに集約して出題します（下表参照）。出題する３カテゴリーはテキスト記載の疾患及び競技種目の組合せによって構成されます。課題（問題文）には競技種目、受傷部位、受傷場面（慢性疾患の場合は現在の状況に至る背景）が含まれます。

なお、受験者はそれぞれの課題（問題文）に応じた実技及び指導を競技者モデルに行い、検定員はその実技内容及び指導内容を評価します。

実施要項記載の項目	実技試験で出題するカテゴリー
①スポーツ外傷・障害、内科疾患等に対する救急処置（評価を含む） ②検査・測定と評価方法 ③対象部位のテーピング ④アスレティックリハビリテーションの初期メニューの立案、説明、デモンストレーション、実技指導 ⑤アスレティックリハビリテーションの後期（現場復帰）メニューの立案、説明、デモンストレーション、実技指導 ⑥現場での予防方法の立案、説明、デモンストレーション、実技指導	Ⅰ救急処置、検査・測定と評価 Ⅱアスレティックリハビリテーション Ⅲテーピング

3．検定員

検定員は公認スポーツドクター1 名、公認アスレティックトレーナー2 名の計３名で構成されます。競技者モデルについても公認アスレティックトレーナーとします。

なお、出題する３カテゴリーの全てを同一の検定員が評価します。

4．試験の流れ

試験は受験者一人あたり 30 分程度で行い、試験時間は下記のとおりです。受験者は試験実施前に配布される「Ⅰ～Ⅲの各カテゴリー全ての課題が記載された問題用紙」の内容を確認します。

検定試験中は、検定員は受験者からの質問に答えることはできません。検定員から受験者に質疑することもありません。

【受験者一人当たりの試験の流れ】

時間	内容
5 分	係員が受験者を控室から試験問題配布所まで誘導。
5 分	試験問題配布所で受験者に出題内容（Ⅰ～Ⅲ）を提示。 受験者は出題内容を確認。
	係員が受験者を試験会場内へ誘導。
	受験者は入室後、持ち込みが許可された物品を指定の場所に置く。 ※但し、袋・ケースから出さずに置くこと。
	氏名の確認
1 分	準備されている物品の確認。（物品に触れることは不可とする）
9 分以内	カテゴリーⅠの問題の読み合わせを行い、読み合わせ終了後直ちに検定を開始する。検定開始から 7 分経過時に検定終了 1 分前の通告。検定開始後 8 分経過時点でカテゴリーⅠ終了。
12 分以内	カテゴリーⅡの問題の読み合わせを行い、読み合わせ終了後直ちに検定を開始する。検定開始から 10 分経過時に検定終了 1 分前の通告。検定開始後 11 分経過時点でカテゴリーⅡ終了。
9 分以内	カテゴリーⅢの問題の読み合わせを行い、読み合わせ終了後直ちに検定を開始する。検定開始から 7 分経過時に検定終了 1 分前の通告。検定開始後 8 分経過時点でカテゴリーⅢ終了。
	検定終了。受験者は問題用紙を検定員に渡し退室。

※ 上記「時間」は、試験問題読み合わせの時間を含みます。

※ 各カテゴリーにおいて、制限時間終了前に競技者モデルへの実技指導・説明が終わった場合は、必ず検定員に「終了」の意思表示を行ってください。その後、検定員の指示の下、次のカテゴリーに移ります。

5. 評価基準

実技試験では基本的に「アスレティックトレーナーが備えるべき知識、理論及び基本的な実技を基盤として、現場で安全に業務を遂行しうる基本的な実技及び指導を実践できるか」について評価します。実技試験全体に共通する評価のポイントは以下の 2 つとなります。

① 競技者とのコミュニケーションを前提としたアスレティックトレーナーに必要な技能、技術を有しているか。

② アスレティックトレーナーが備えるべき知識・理論を基盤として実施される基本的実技及び指導が安全を確保できる許容範囲であるか。

なお、上記①・②の判断基準となるのは『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト』の記載内容とします。

6．各項目（カテゴリー）での評価のポイント

カテゴリー	評価のポイント
Ⅰ 救急処置、 検査測定・評価	①病態理解のための情報収集力 （病態からみた評価項目の理解と適切な手順[問診・視診・触診]） ②対象部位の機能・理学検査による鑑別評価 （鑑別に必要なROM・MMT・整形外科的テストの実施） ③情報収集・鑑別評価実施時のリスク管理 （手技の事前説明、痛みの確認、病態を悪化させない配慮） ④スポーツ外傷・障害に対する救急処置 （正しい手順・方法での救急処置[安静肢位・固定肢位・固定方法の選択、RICE処置 ） ⑤評価結果及び救急処置の選手への説明 （適切な言葉で選手に病態の説明）
Ⅱ アスレティック リハビリテーション	①評価実技能力 （アスレティックリハビリテーションプログラム処方に必要な機能評価のスキル ） ②プログラム作成能力 （傷害特性・競技特性・フィットネスレベルにあわせたプログラム作成） ※プログラムとは複数のエクササイズメニューで構成されているもの ③エクササイズ指導能力 （エクササイズの適切な実技指導） ④説明・コミュニケーション能力 （評価、エクササイズ指導及びリスク管理における必要なコミュニケーション） ⑤リスク管理能力 （傷害特性、競技特性、フィットネスレベルを考慮した症状増悪や二次損傷のリスク回避）
Ⅲ テーピング	①外傷・障害の理解とテーピングの種類・手技の選択 ②ポジショニングの適切さ（選手の姿勢の配慮、リスクの配慮、巻く側の姿勢 ） ③テープを巻く範囲 （アンダーラップ・アンカー・サポートテープの位置、方向、角度） ④適切な張力で効果的なテーピングの実施（たるみ、しわ、食い込み） ⑤手早く綺麗なテーピングの実施 （時間、仕上がりの綺麗さ、全体としてフィットしているか）

7．受験に際しての注意事項

（1）試験会場に用意されている物品は別紙1をご確認ください。関節角度計、メジャー、テーピング用ハサミ・カッターについては、各自普段使い慣れたものを試験会場へ持ち込んでも構いませんが、競技者モデルの安全が確保されないハサミ・カッターは使用不可とし、持ち込みした場合は受験不可とします。なお、試験会場に入室する際はこれらの持ち込み物品を必ず袋・ケース等に入れて持ち込むようにしてください。

（2）カテゴリーⅢで使用するテープ（別紙 2）は、日本スポーツ協会が予め試験会場に用意いたします。受験者がテープを持ち込むことはできません。

（3）ウェアラブル端末（スマートウォッチ、スマートグラスその他これらに類する機器を含む。）

の試験会場への持込みを禁止します。

（4）試験中に録音、録画、撮影、通信その他試験内容の記録・保存・送信につながる行為を行った場合は、その場で試験を中止し、不合格とします。

（5）カテゴリーⅡの試験において、競技者モデルからエクササイズの実施方法について質問された場合は、簡潔に答えてください。

（6）カテゴリーⅢの試験において、粘着スプレー、ワセリンパッドは使用しませんので、持参の必要はありません。また、テーピング実施前の機能評価、テーピング実施後の効果判定を行う必要はありません。

（7）試験会場には更衣室を用意しておりません。競技者モデルへの実技指導を行うにあたって差し支えない服装・靴でお越しください。

（8）左右間違いは 0 点となるため、十分ご注意ください。

（9）手の爪を短く切る、事前の手洗いや消毒液による手指消毒など、感染症に対する標準的予防措置を十分に取ってください。なお、体調不良時（新型コロナウイルス感染症等への感染の疑いがある場合）は受験しないでください。

8. 合否判定

実技試験の検定員 3 名による個別評価に基づき、最終的な合否判定を判定会議にて行います。

別紙１

【試験会場に予め用意されているもの】

	準備物品	数量	備考
1	トレーナーベッド	1	
2	バンテージ大・小	各 1	
3	ストレッチマット	2	
4	ステップ台	2	
5	鉄アレイ（2 ｷﾛ）	2	
6	テニスラケット	1	
7	ソフトシーネ（ジェンテックスプリント）	2	SS サイズ・M サイズ各 1
8	ボール各種（ﾊﾞﾚｰ,ｻｯｶｰ,ﾊﾞｽｹ,ﾗｸﾞﾋﾞｰ,硬式ﾃﾆｽ）	各 1	
9	コンタクトバッグ	1	
10	関節角度計	1	持ち込み可
11	打腱器	1	
12	メジャー	1	持ち込み可
13	筆	1	
14	ピンクリップ	1	
15	テーピング用ハサミ・カッター	各 1	持ち込み可
16	氷嚢	1	
17	ビニール袋	1	
18	三角巾	1	
19	タオル	1	
20	氷入りクーラーBOX	1	ダミー氷
21	砂のう（3 ｷﾛ）	1	
22	ミニハードル	3	
23	ラダー	1	
24	バランスディスク	2	
25	セラバンド（黒、緑、赤、黄）	各 1	
26	マーカー	10	
27	メディシンボール（1 ｷﾛ）	1	
28	バランスボール（75cm）	1	
29	毛布	1	
30	テーピング用テープ一式		

別紙２

実技試験で使用するテープ及び持参しなければならないテーピング用踵置き

※試験会場には、下記「当協会養成講習会及び実技試験使用テープ」に記載のテープを、日本スポーツ協会が用意します。
※実技試験では、試験会場に用意されているテープを使用してください。
※実技試験で使用するテープを受験者が持参することはできません。
※試験会場に入室する際は、膝のテーピングの際に用いる踵置きを準備し、別紙1の持ち込み可物品を持参する場合は、検定員の指示に従い袋・ケース等に入れたまま指定場所に置いてください。踵置きの指定は特にありませんので、普段使用しているものを準備してください。下記の例を参考にしても構いません。
※テープの数量は受験のために必要な種類・数量となっています。
※下記「テープの種類」に記載のテープは全てを使用する訳ではありませんのでご承知おきください。
※踵置きの例（日本スポーツ協会養成講習会や実技検定試験で使用している踵置きの例）
六角形、高さ約 4cm、幅約 9cm 【作り方の例】38mm テープの芯 7 本を六角形にしてその周りに伸縮テープを巻く

	テープの種類	数量	当協会養成講習会及び実技 試験使用テープ（ニチバン社製）
1	非伸縮テープ 幅 25mm	1	バトルウィン TM テーピングテープ C タイプ（非伸縮） 品番：CH25、C25F、C25F2
2	非伸縮テープ 幅 38mm	1	バトルウィン TM テーピングテープ C タイプ（非伸縮） 品番：C38、C38F、C38F2
3	伸縮性粘着テープ ソフトタイプ（ハンディカットタイプ） 幅 50mm または 51mm	2	バトルウィン TM テーピングテープ EL タイプ（伸縮・手切れ） 品番：EL50、EL50F
4	伸縮テープ 幅 50mm または 51mm	2	バトルウィン TM テーピングテープ E タイプ（伸縮） 品番：E50、E50F
5	伸縮テープ 幅 75mm または 76mm	2	バトルウィン TM テーピングテープ E タイプ（伸縮） 品番：E75、E75F
6	アンダーラップ	1	バトルウィン TM アンダーラップテープ U-タイプ（非粘着） 品番：U70、U70F